

都市再生整備計画 事後評価シート
安城北東地区

平成23年3月

愛知県安城市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	安城市	地区名	安城北東地区			面積	283ha
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	3,411百万円	国費率	0.41		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(市道 新明東栄線、市道 今池町27号線)、地域生活基盤施設(防災備蓄倉庫)、高次都市施設((仮称)北部交流センター)						
		提案事業	地域創造支援事業(地区災害対策拠点及び物資集積拠点計画業務)、事業活用調査(災害対策避難路計画業務)、まちづくり活動推進事業(防災意識啓発活動)						
	新たに追加した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		提案事業	-		-			-	
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-		
	変更	-		-			-		

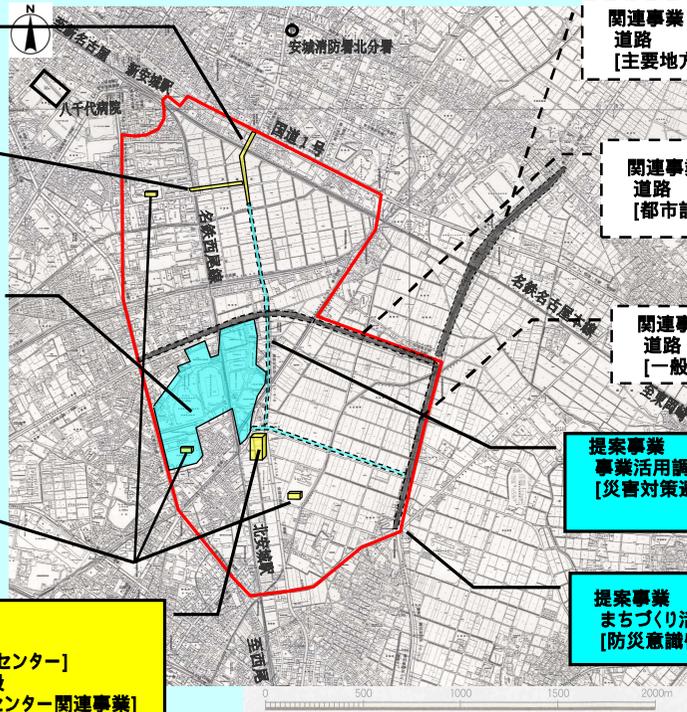
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	緊急車両到達時間	分	10	H17	8	H22		8		あり なし	鉄道立体交差をはじめとする、区内における道路網整備が指標向上につながった。	
指標2	要援護者避難援助数	人	995	H17	1,650	H22		1,657		あり なし	(仮称)北部交流センターの整備が、要援護者避難援助数の増大につながった。	
指標3	防災(地震)満足度	%	33	H15	40	H22		48		あり なし	緊急車両到達時間を短縮するための道路整備や防災備蓄倉庫の整備等の防災への取組みが、満足度向上につながった。	平成25年5月
指標4										あり なし		
指標5										あり なし		

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1												
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4) 定性的な効果発現状況 地域の防災訓練等の参加者に実施したアンケートでは、「身近な訓練の意識付けが大切」、「弱者を中心とした取組みも大切」、等の回答があり、市民の防災に対する意識の向上がうかがえる。

5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた			
	住民参加プロセス	北部地域交通問題検討会への住民参加	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			検討会の提言を生かした事業実施のプロセスでの住民参加の継続的実施
持続的なまちづくり体制の構築	自主防災組織の充実	都市再生整備計画に記載し、実施できた			自主防災組織の活動体制の確認と支援	

様式2-2 地区の概要

安城北東地区(愛知県安城市) 都市再生整備計画事業の成果概要					
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 東海地震に係る地震防災対策強化地域における防災拠点の創出 目標1) 輸送経路の整備により、緊急・災害時の搬送時間の短縮を図る。 目標2) 障害者や要援護高齢者等にも対応できる防災施設の整備を促進する。 目標3) 災害時の避難方法等の徹底を図り、負傷者数の低減と防災施設への迅速な収容を目指す。	緊急車両到達時間	単位:分	10 H17	8 H22	
	要援護者避難援助数	単位:人	995 H17	1,650 H22	1,657 H22
	防災(地震)満足度	単位:%	33 H15	40 H22	48 H22
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H
【道路 市道新明東栄線】  【高次都市施設 (仮称)北部交流センター】 	基幹事業 道路 【市道 新明東栄線】 基幹事業 道路 【市道 今池町27号線】 提案事業 地域創造支援事業 【地区災害対策拠点及び物資集積拠点計画業務】 基幹事業 地域生活基盤施設 【防災備蓄倉庫】 基幹事業 高次都市施設 【(仮称)北部交流センター】 地域生活基盤施設 【(仮称)北部交流センター関連事業】		関連事業 道路 【主要地方道 豊田安城線】 関連事業 道路 【都市計画道路 安城高浜線】 関連事業 道路 【一般県道 安城桜井線】 提案事業 事業活用調査 【災害対策避難路計画業務】 提案事業 まちづくり活動推進事業 【防災意識啓発活動】	【地域生活基盤施設 防災備蓄倉庫(新田小学校)】 	凡 例 ■ 基幹事業 ■ 提案事業 - - - 関連事業
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署、病院相互間の緊急車両走行時に鉄道横断部が支障となっていたが、鉄道立体交差化により消防署と病院を結ぶ道路における踏切除却により待ち時間が解消された。また当該路線を含めた地区内の骨格的な道路網整備により、災害時の避難や救護のための走行性が向上した。鉄道立体交差化により、消防署と病院の連携は強化されたが、今後は消防署と病院間だけでなく、避難所等を含めた拠点施設との連携を図る。 ・大規模災害時における広域避難場所の防災機能強化が課題であったが、総合運動公園において、地区災害対策拠点及び物資集積拠点の整備計画が策定された。策定された整備計画をもとに、総合運動公園の防災機能を強化する。 ・耐震化された災害対策拠点の確保が課題であったが、(仮称)北部交流センターの整備により、耐震化された要援護者の避難場所が確保された。今後は、当該施設の防災機能の充実を図る。 ・市道新明東栄線、主要地方道豊田安城線等、道路の整備により地域の交通事情が変化しており、交通渋滞の発生が懸念される。 				
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	災害時拠点施設の連携 地区内に点在する拠点施設の連携を図ることで、災害時の避難や救護を円滑にする。 総合運動公園の防災機能強化 広域避難所として必要な機能を整備することにより、防災拠点としての機能強化を図る。 (仮称)北部交流センターの防災機能の充実 災害時に職員が迅速な対応を図れるよう教育を行う。また、要援護者の避難生活に必要な資機材等の充実を図る。 地域をとりまく交通事情の変化への対応 道路整備に伴う地域内の通過交通の流れが変わったことへの対応等により、良好な道路交通環境の維持に努め、災害時の道路のアクセス性確保を図る。				